

本好きな子を育てるために

「本は本当に素晴らしい力をもっています。本を開くたび、そこには新しい世界が広がり、その世界に浸ることができるとき、心が落ち着き、豊かな感性が湧き上がり、人生をより深く生きる力を身に付けることができます」(京都市

子ども読書活動振興市民会議アピールより)。子どもたちの表現力やコミュニケーション力の向上のために、読書は欠かすことができません。学校での読書指導はもちろんですが、ご家庭でも気軽にできる取組をご紹介します。

家庭でできる取組

夕食後や寝る前、親子で一緒に「20分間読書」をするなど、読書を習慣づけてみましょう

テレビを消したり、ゲームの時間を減らしたりして、家族みんなで本を読む「家庭読書の日」をつくるなど、子どもが本と出会うきっかけをつくってみましょう

繰り返し読みたい本、繰り返し読ませたい本などを家庭にそろえておくようして、親子で本を読む習慣を身につけ、子どもと一緒に本を読んだり、本について話したりしてみましょう

「みんなで読もう」(大きなあじろ読書の輪)より

学校図書館を支えるボランティアたち

右京区にある花園小学校の図書館では、毎朝、図書ボランティアのさわやかな「おはよう」の挨拶が聞こえます。登校してきた児童たちが授業前の朝の貸出返却にやってくるのです。図書委員も忙しい朝を過ごしています。8時25分の予鈴とともに子どもたちは教室に戻り、8時30分から全校一斉に10分間の朝読書を開始。子どもたちは静かな雰囲気の中でページをめくり、気持ちよく着かせる。一日の学校生活が始まります。

花園小学校では、ボランティアの協力により、図書館は児童の登校から下校まで毎日開館し、いつでも貸出を行うことができます。ボランティアの方の仕事は、読み聞かせをはじめ、本の修理や整理、コンピュータ入力、予約やお借りくわなど多岐にわたります。授業に使用し、環境を整備したり、飾りつけなど、環境を整備したり、静かな雰囲気の中でページをめくり、気持ちよく着かせる。一日の学校生活が始まります。



子どもたちがあつらえる図書館をめざして

市立小学生全員に配布!

読書ノートをご存じですか?

●約1万人の小学生が100冊以上、合計100万冊以上を読破!

読書ノートは、子どもの読書意欲を高める「めざせ100冊! 読書マラソン」運動の取組の一つとして京都市小学校図書館研究会の協力のもと、平成18年度に作成され、市立小学生に学校を通じて配布されています。

学校・家庭・地域の連携により、すでに約1万人の児童が1年間に100冊以上の本を読み、合計100万冊以上を読破しました。全校児童のうち60%以上の児童が100冊を読破している市内の市立小学校も、すでにいくつかあります。



読んだ本の記録を読書ノートに残そう

ここまで使える! 読書ノート

ある小学校では、読書ノートをこのように活用していました。児童は、本を読むごとに読書ノートに題名や感想を記入し、5冊読むとシールを貼ってもらえます。100冊は速くても、5冊なら身近です。間隔をあけずにシールがもらえるので達成感が続くうえ、目標の100冊に一歩ずつ近づいていることも実感できるのです。

また、担任教師が読書ノートに細かく目を通し、子どもの読書内容を把握することで、きめ細かい読書指導が可能となります。

見事100冊を達成すると、今度は司書教諭から大きな「頑張りシール」のプレゼントが。児童は達成感でいっぱいです。2冊目、3冊目に挑戦する子どもも出てきました。けれど読書ノートの一番の楽しみは、あとになって読み返せること。「あの頃こんな本に夢中だった」「こんなに頑張り続けた」という記録は、懐かしさとともに未来の自分を励ましてくれる思い出となるはずですよ。



楽しみながら伸びていく読書記録

子ども読書の日 4月21日(土)→29日(日・祝)

好評「地下鉄子ども文庫」今年も開催! リサイクル図書が持ち帰り自由【冊数制限あり】ぜひご家族でお立ち寄りください。

4月22日(日) 午前11時～午後2時30分
4月29日(日・祝) 午前10時～午後5時 受付期間/4月20日(金)まで
要予約
参加料/無料 事前申込/不要
お問い合わせ 中央図書館 ☎02-3377(予約専用) 受付時間/午前10時～午後5時 受付期間/4月20日(金)まで

第46回 クロスワードパズル

パズル制作/角田美里
1 D 2 3
4 5 E
6 C
7 A 8 B
9 10
A B C D E

解答方法
ハガキにクイズの答え(ABCDE)・住所・氏名・電話番号を明記の上
〒604-8571(住所不要)
京都市教育委員会 生涯学習部
「あしたのために」クイズ係宛

正解者の中から
30名に図書カード1000円分、
20名に青少年科学センター入場券1枚
を進呈。
青少年科学センター入場券の当選者
発表は発送をもって替えさせていただきます。
第46回クロスワードパズルの当選発表
は次回に掲載
締め切り日
5月31日(木)当日消印有効

第173号の解答
オ バ ン サ イ
北川 加藤 金丸 小島 小島 宇野 岩間 石田 山本
山本 山本 山本 山本 山本 山本 山本 山本 山本 山本

「子どもが安らぎ育つ環境」を確立するための大人の役割とは?

今年2月、大人の行動規範として「子どもを共に育む京都市民憲章」が制定されました。子どもを健やかに育むために、社会のあらゆる場で「憲章」に根ざした行動を実践することが大切ですが、中でも家庭での取組は重要です。新年度を迎え、「家庭」が子どもを安らぎ育む環境にならなければならない。まずは見直すことから、新しい一年を始めよう。

インターネット時代の子育て 親・大人の責任と役割について考える

携帯電話が中高生はもとより小学生の間にも爆発的に広がりつつあります。便利なツールである一方、子どもたちの命に関わる緊急課題となる側面ももつています。この問題について、警察庁の「少年インターネット利用問題研究会」で座長を務められた下田博次、群馬大学大学院教授を講師に迎え、地域生徒指導連合会主催、人つくり21世紀委員会の共催による研修会が開催されました。これを機会に、私たちがなぜ携帯電話やインターネットが危険なのか、「子どもたちへ広がる中で親・大人の責任」を考えてみましょう。

親・大人として何が出来るか

インターネットは新しい世界であり、子どもたちにとっても新しい冒険の場です。子どもたちはこの情報新世界を体験していくのですが、一方で危険ももつています。親・大人としては、子どもを信じるだけでは十分で無責任です。子どもたちがインターネットや携帯電話を正しく使っていくだけの能力を育み、しっかりと見守っていくことが必要です。

●親・大人がすべき3つの努力
携帯電話を与える前に使用目的をはっきりさせ、使い方を注意し、約束する
注意・約束を守っているか 見守る(監視する)
問題が起きたら 指導する

子どもには「早寝・早起き・朝ごはん」を

「ゲームやテレビ、インターネットなどでの夜更かし、朝寝坊、寝不足、朝ごはんを食べずに登校、学校で元気がでない」子どもたちがいます。そんな中、地域ぐるみで、子どもたちの元気の源「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する取組が進められています。今なぜ「子どもたち」に「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかける必要があるのでしょうか。子どもたちの生活スタイルの乱れは、大人社会の生活スタイルの原因があることは否定できません。朝ごはんが子どもたちの学力や体力に影響するとの調査もあります。「早寝・早起き」をしてしっかりと朝ごはんを食べる習慣の確立は、大人の責任でもあります。

早ね早起き朝ごはんの唄

「早ね早起き朝ごはんを推進」
作詞 井上志(峰ヶ岡中学校校長)
作曲 升美雄(夢窓幼稚園長)

1 早ね早起き朝ごはん
きょうからみんなで「はやくわー」
おはあやがいつてもよいねの子ほすり
くんくん
こんやはいめめみだらう
2 早ね早起き朝ごはん
きょうからみんなで「はやくわー」
おじやんがいつてもよいねやあきやん
「三文の徳じゃー」
これからいいことありそうだ
3 早ね早起き朝ごはん
きょうからみんなで「朝ごはん」
おあさんがいっぱい朝ごはん
「野菜もたべー」はいー
なんだかげんきがでたよ
* * *

食の「三つの楽しさ」を家庭で

子どもが偏りなくバランスのとれた食事を習慣を身に付けることは、将来の健康に大きく寄与します。しかし、現実には食べ物好き嫌いを子どもが多く見られ、こうした子どもをどう育て、食生活の好き嫌いをなくする方法として、食の「三つの楽しさ」を家庭で実践することが大切です。

一「目は作る楽しさ」です。料理が出来上がっていく過程を見て、美味しそうな香りをかぐと、自分自身が作った料理を味わいたくなります。また、調理をする大変さや手間にも気づき、調理する人への感謝の気持ちも育まれ、残さないようにしようと思えます。

二「目は食べる楽しさ」です。家庭用ランタナーや鉢でも育つ野菜等があります。小さな種が自然の恵みを受けて大きく育ち、花を咲かせて実を付ける様子は、驚きと感動をよびます。一生懸命に世話することによって、収穫物を残さず食べようという気持ちが生まれます。食べ物は命に由来することになり、食の感謝の気持ちも育ちます。

三「目は食べる楽しさ」です。「一緒に食卓を囲む」ことによって会話が増え、心も和んで食欲がわき、苦手な食べ物も食べやすいように食べています。食の楽しさを示すことで、自然に身に付きます。時間に追われるような現代からこそ、時間をとって家族と一緒に食事を考える時間大切にしたいと思えます。

心身の成長と人格の形成に大きな影響を及ぼし、豊かな人間性を育んでいく基礎をつくっていくのです。

